

子どもを社長にする子育ての極意(第7回)

本音が小山進をショコラ界の天才へと導いた(前編)

2016.06.09

経営者の育てられ方から子育ての極意を学ぶ連載。今回、取り上げるのはショコラティエ(チョコレート菓子職人)として有名なパティシエ エス コヤマの小山進社長です。父親もケーキ職人だった小山社長は、子どもの頃からケーキ職人をめざしていたわけではありません。ある年のクリスマスイブに父親が初めて胸の内を打ち明けたことで、父の背中を追いかけようと決めたのです。前編ではそれに至る母親の子育てを紹介します。

パティシエ エス コヤマ社長・小山進の場合



(写真/宮田昌彦) 小山進(こやま・すすむ)

1964年生まれ。83年に「スイス菓子ハイジ」に入社。2000年パティシエ エス コヤマを設立。03年、兵庫県三田市に出店。チョコレートの祭典「サロン・デュ・ショコラ・パリ」をはじめ、海外のコンクールで受賞多数

兵庫県三田市にある「パティシエ エス コヤマ」は、その人気では日本でも指折りの洋菓子店だ。約5000平方メートルの敷地はさながら「お菓子のテーマパーク」。

チョコレート専門店やカフェ、お菓子教室などが点在し、1日約4000人が訪れるという。全国の商業施設から出店依頼は絶えないが、すべて断っている。そのため北は北海道、南は沖縄から、わざわざ飛行機に乗って買いに来るお客までいる。

オーナーは小山進。毎年フランスで開催されるチョコレートの祭典「サロン・デュ・ショコラ・パリ」において、4年連続最高位、そして3度の最優秀賞に輝いていることなどから、その名は日本を超え、世界にとどろく。

そんな押しも押されもせぬこの名店に、毎月のように小山の両親がやってくる。

ほかのお客と一緒に長蛇の列に並び、最愛の息子の菓子を買って求めるだけではない。開店当初は、母親が「お店というのは、トイレが汚かったらあかんのや」と言いながら、勝手にトイレ掃除をしていた。

母親は今も小山をつかまえては、「絶対に派手なことをしたらあかんで」「周りの方とはうまいことってんのか」「もし、あんたが世の中でうまいことってないとしたら、私のせいやから、教えてな」などと、諭すように繰り返すそうだ。

「来るなども言えんし。俺、結構頑張ってるねんけどなあ」

そう言って小山は笑う。

小山の父親もまた、ケーキ職人だった。朝から晩まで、コツコツと働く父親の背中を小山が追いかけたのかというと、いきさつはそう単純ではない。

エリートになることを願った母… 続きを読む